

学びの杜ののいち カレード

k a l e i d



開館1周年！

11月1日(木)、学びの杜ののいちカレードが開館から1周年を迎えました。

市民の皆さんの大きな期待のほか、図書館と市民学習センターの機能を持つ複合施設として開館し、大きな注目を集めたカレード。その期待通りに多くの人に利用され、開館からの来館者は1年を待たずに50万人を超えました。これは当初の予想を遥かに上回る数となっています。

カレードでは本を読んだりイベントに参加することはもちろん、キッズスタジオや音楽スタジオ、創作スタジオを利用した創造的な活動をする事ができます。また、オープニングラリーや市民展示室では多様な企画や作品展が行われ、カレードに来ればいつでもさまざまな「学び」に出会う機会があります。さらに、子ども向けの書籍やキッズコーナーも充実し、小さな子どもを持つ親も安心して利用することができます。子どもからお年寄りまで、誰もが気軽に利用できる環境の整ったカレード。市民の学習の場として、カレードはこれからも成長を続けていきます。

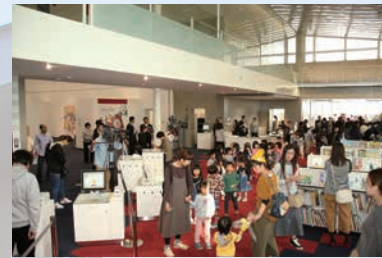
カレード1周年のあゆみ

昨年の11月1日から1年間、カレードではさまざまなイベントが行われてきました。カレードの1年間を振り返ってみましょう。

11月



開館直後には米林宏昌氏の講演会や展示会、荒俣宏氏の講演会などさまざまな催しを行い、多くの人を集めました。



待ちに待った開館の日。市内外から多くの人が新しい施設を見に訪れたほか、新聞やテレビなどのメディアでも大きく取り上げられました。

12月



貸館施設として、料理教室やサークル活動など多種多様に利用できるカレード。提案型協働事業「CoCoARC」には大勢の親子連れが訪れました。

また、市民展示室とオープニングラリーでは文化協会の作品展も開催され、協会の力作が並びました。



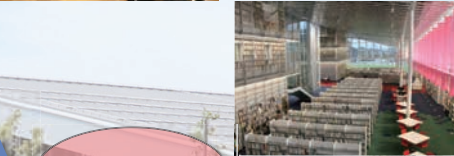
1日平均で2千人以上が訪れ、開館からわずか40日で来館者は10万人を突破。10万人目の来館者には記念品が手渡されました。

2月



2月には創業セミナーや防災講演会などが開催され、それぞれの分野に関心のある人が多くを学びました。カレードではこのようなセミナーや学習会が頻繁に行われます。

6月



6月には来館者が30万人を突破。サポーターズクラブ養成講座では、図書館の仕事に興味を持つ人がボランティア活動を学びました。スタッフとサポーターが協力して、さらに利用しやすい図書館を目指します。

8月～現在



8月には国際交流員のエドワードによる英語を交えたおはなし会がスタート。また、中央公民館の建替期間中は寿大学の活動もカレードで行われています。他にもカレードでは陶芸、料理、科学実験など定期開催の教室が開かれ、市民の学習の場として活用されています。

第20回図書館総合展

10月30日(火)、パシフィコ横浜（横浜市）で行われた第20回図書館総合展において、カレードが紹介されました。全国から多数の図書館関係者や自治体職員が訪れた総合展で、講演とパネルディスカッションに栗市長とカレードの堀尾館長、三上建築事務所の益子所長が出席。カレードの施設整備や運営にかけた思いを語りました。「図書館以外の機能も備えたカレードはまちづくりに非常に有用」という話に、訪れた人は熱心に耳を傾けていました。



会場となったパシフィコ横浜周辺

開館1周年記念セミナー

11月1日(木)、開館1周年となったカレードでは記念セミナーが開かれ、栗市長が「カレードでは多くの市民の皆さんが活躍していて大変うれしい。これからも皆さんの期待に応えられるような運営に努めたい」とあいさつしました。

また、カレードの堀尾館長は「これまでの静かな図書館と違って家族連れの利用が多く、にぎわっている。今後にもぎやかな図書館を目指していきたい」と手応えと意気込みを語りました。



1周年を祝う巨大な紙粘土のケーキはカレードスタッフのお手製！たくさんの祝福メッセージが書かれました。

